



## アドミンと連携し、長崎市にスマートビレッジを創設

長崎県長崎市出島町に拠点を置くMCSCCの会員企業株式会社アドミンとMCSCCは、アドミンが長崎県長崎市琴海戸根町（県民の森隣接地）に所有する20万㎡の土地（山林）を活用しながら、「AIやIoTテクノロジーが支え森と共生する未来の暮らし」をテーマとした実証実験村「スマートビレッジ」構築を目指しています。

スマートシティについては、様々な企業や大学、自治体が取り組みを始めており、先日は富士山の裾野に実証都市「ウーブンシティ」建設が始まるなど、各地で取組が活発化しています。

アドミンとMCSCCは、20万㎡の土地に広がる自然環境を活かしながら、森に溶け込むように小規模な実験農園を点在させ、単にテクノロジーの実験場ではなく、人々がAIやIoTの力を借りながら自ら「食」を生み出し、健康に暮らし、クリエイティブな

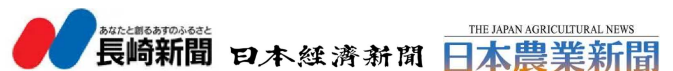


活動やテレワークに励むための「ライフスタイルの実験場」を目指しています。

当初は、山林そのものの一部を開墾して農園を設ける予定でしたが、近隣の山林の間に点在する耕作放棄地を所有する近隣農家から、農地提供の申し出が相次ぎ、第2期に予定していた耕作放棄地を活用した展開に前倒して取り組む方針です。また森林エリアはリクリエーションの場やクリエイティブ活動の場として活用していく予定となっています。



この取組は長崎新聞に大きく掲載されたほか、日本経済新聞、日本農業新聞（1面）にも取り上げられ、長崎の複数のテレビ局でも報じられました。



（各紙の電子版。日本農業新聞は紙面ではスマートビレッジに言及していましたが、電子版では字数制限で割愛され、益田の水位計等が記述されています。）

また、長崎市に設置したMCSCCのFIWAREデータセンターは8月から本格稼働しています。FIWAREは、EUで官民連携で開発されたオープンソースの基盤ソフトウェアです。MCSCCはこのFIWAREに準拠したプラットフォームを構築しており、目的に合わせて自在に組み替えられるため、個別の分野ごとにシステムを構築する必要がありません。分野や組織の壁を越えてデータの利活用が可能となるオープンインターフェースのプラットフォームであり、新たなサービスの創出につながる可能性を持っています。

IT企業アドミンの協力を得て、かつての「世界への窓・出島」がある長崎市にサーバーを置き、データの集積とMCSCCによるPoC開発支援の基盤としての役割を担わせ、世界に向けての拠点とします。